

大空へ舞い上がれ



講師の「竹とんぼの飛ぶ原理」に耳を傾ける参加者

文化
なかの

中野市公民館報

西部公民館講座

スーパードンぼを飛ばそう

西部公民館は7月19日(土)、子ども事業「スーパードンぼを飛ばそう(全3回)」を開きました。

親子連れを含む12名の参加者は、高く舞い上がる竹とんぼを作ろうと、講師の清水富雄さんの説明に沿って、一生懸命に羽根を削り、ヤスリをかけていました。

講座担当者は「昔、竹とんぼを作って野原で飛ばし、良く飛んだときは本当に嬉しかった。子ども達も自分で知恵を出し、高く飛んだときの感動を味わってほしい」と期待していました。

今月号の
特集

編集委員体験取材

・読み聞かせ

・「黒姫のついで」

2008

No.41
(通巻No.573)

8

発行 中野市中央公民館
編集 文化なかの編集委員会
〒383-0025
中野市三好町一丁目4番27号
TEL 0269-22-2691
FAX 0269-26-2342

あおぞら

先月の7月1日、横手山と志賀山の開山祭に参加した。久しぶりの快晴で、山頂からは、遠くに富士山の雄姿がはつきりと眺められた。宮司の祝詞を聴き、衣装を見ていると、古代人になった気分だ。

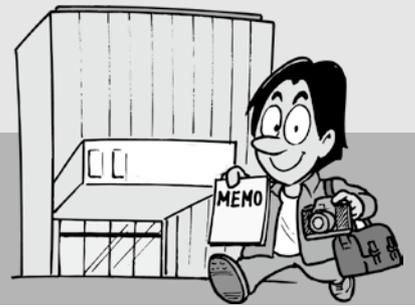
その後、志賀山へと向かう。新緑の樺の林の中をゆつくりと歩く。次第に自分の心が洗いたてのシャツのように、無色になっていくのが分かる。日常の生活の中で、気づかなかった精神の疲れ、ゆがみを自然が教えて、そして癒してくれる。ありがたいことだ。

白い花をつけた綿菅の群生地を通り抜けてゆく。汗をふきふき山頂へ着くと、眼下に、コバルトブルーの大沼池が、息を呑む程に美しい姿で横たわっている。この池は、中野市民の水の源である。

歩いていると、洞爺湖サミットではないが、地球温暖化防止のために、森林の空気を造る権利を売買したらどうかという話が聞こえてくる。

熊の湯ホテルで直会を行う。緑の森、池、温泉、体が緑に染まって、ちよつと考えさせられた一日であった。(U)

・「黒姫りゅう」づくり



祇園祭に参加

小学校の低学年を中心に行った「黒姫りゅう」づくりに文化なかの編集委員も一緒に参加してきました。

子ども達と いっしょに

7月5、12、19日、中央公民館 子ども育成事業「黒姫りゅうをつくって 祇園祭に参加しよう」に子ども達と一緒に参加してきた。

制作前に子ども達は「読み聞かせ」で「黒姫物語」について学習し、いよいよ「黒姫りゅう」づくりだ。

制作は専門委員（教育関係者6名で事業の企画に参画）と一緒に、龍の胴体に、丸く切った様々な色のカラーポリ（ビニール素材の袋）を、鱗として貼り



龍の胴体に鱗（カラーポリ）を自由に貼っている

付ける作業。15名の子ども達は、長さ10mの龍の胴体に自由に貼り付けていった。

顔など、複雑な部分は専門委員が制作したが、自分達でつくった「黒姫りゅう」が完成するとみんな、満足気な表情だった。

祇園祭に参加

祇園祭の当日は、天候に恵まれ、暑いながらも風が吹く、夏祭りには最高の天気。

出発式の後、いよいよ山車の行進だ。「黒姫りゅう」は四ヶ町みこし、西町おはやし子供屋台と一緒に出発。

練り歩いていると、沿道からの温かい拍手、声援、携帯電話を手に写真撮影をする人などが大勢いて、子ども達も「恥かしけど嬉しい」と益々元気になっていく。

時間と体調面を考慮して最後まで行進は出来なかったけれど、子ども達はみんな、笑顔だった。

それは、自分達で「黒姫りゅう」をつくって祇園祭に参加「出来た達成感からではないだろうか。



自慢の黒姫りゅうで参加する子ども達

感性を豊かに

中央公民館の子ども育成事業「黒姫りゆうをつくって 祇園祭に参加しよう」のオリエンテーションで松谷みよ子再話の「黒姫物語」を三人で演じた。解説とりゅうの役・黒姫の役・殿様の役と分担した。

事前に、段落や間を空ける所、強調する所、聞き易くするため文も少し工夫し合ったり、アクセントやテンポなども研究し合ったりハーサルし、本番に臨んだ。

聴衆（子どもたち）の表情を感じて読み聞かせをしたいと思っただけで済ませたいのステイジ？ でした。紙芝居も加わり子どもたちの表情も次第に真剣になってきた。終って、聴衆も、演じる側も「フーッ！」と大きく息をした。

聴衆の目の前で、相手のことを思いながら、肉声で気持ちを込めて内容を伝えることは、今

日の映像による一方的な伝達（バーチャル体験）では得られない双方向の言葉や表情などによる人間らしさ・温かさが感じられた。

人の感性を豊かにし、コミュニケーション力をつけるためには、読み聞かせは大変効果的だと感じた。

お互いの思いやりを感じて行われるコミュニケーション・対話は今の殺伐とした社会には、子どもにも、大人にも大切な感性でもあり技能でもあることを感じた。



黒姫物語の読み聞かせ

親子で楽しもう

読み聞かせをしてくれた、丸山浩さんは「おとこぐみ」という男性ばかりの読み聞かせグループに所属。活動は今年で5年目というキャリアだ。メンバーは、現在6人。

児童センターや子育て支援センターなどで、月に1、2回の読み聞かせを行うほか、県立長野図書館のおはなしフェスティバルなど、市内外の様々なイベントにも参加している。

多忙な中での活動だが、子ども達が真剣に聞いてくれる様子を見ると、やっつけてよかったなと実感する、という。また、改めて本の素晴らしさに触れることができた振り返る。

「おとこぐみ」は、一緒に活動するメンバーを募集中。仲間を増やし、家庭でお父さんやお母さんが膝の上で本を読んでくれるきっかけになればいいと今

後の活動にも意欲的だ。

子どもの読書ばなれが懸念される昨今、本を読むよりもテレビを観たりゲームをしたりする時間が長い生活は、将来的に心に影響を及ぼすことが必至であると言われている。なかなか、本を読むことができない子ども、読書の習慣のない子どもでも、お父さんやお母さんが読んでくれるなら、本に興味を持ち、一緒に本の世界を楽しむことができるのではないだろうか。

自分で読むのと、人に読んでもらうのでは、また一味違う。子どもばかりでなく大人も、読んでもらうと、また違った本の世界を見ることが出来る。

つけっぱなしのテレビを消して、是非、読書を楽しむ時間を作ってみてはいかがだろうか。



絵本を楽しくして

読書ばなれが懸念される今だからこそ、読み聞かせを体験してきました。

こんにちは 分館

吉田分館は中野市街地の西側の地区で、世帯数四四九戸の分館です。市街地に近いこともあり近年、宅地化が進み年々、戸数が増加しています。周辺地域が変って行く中で、生活習慣が多様化していくのは、当地区でも同様で、分館事業への人集めに時には苦戦する場合がありますが、毎年継続して行なわれているのは、区民の理解と協力のおかげだと強く感じています。

始まり、つい先日は高瀬川ダム見学という、一日バスハイクの研修旅行を実施しました。当日は、朝から、あいにくの雨で、初夏の北アルプスを背景とした壮大な石積ダムの見学とはいきませんでしたでしたが、休日は運転しない発電所のタービンが、大雨の水量を流す為フル稼働している姿を幸いにも見る事ができました。また昼は、ゆつくり温泉に入り、カラオケなどで楽しいひとときを過ごすことができ、親睦が深められたのではないかと思います。

吉田分館

今年度も、春の球技大会に



分館研修会にて高瀬川ダムを見学

一つ一つの事業が区民の触れ合いの場となり、地域の活性化に少しでも役立てられればと感じています。その為には、より大勢の区民の参加が何よりも大切です。

(竹内 秀明)

ふるさとこの歴史

吉田村の古い絵図を見ると、東の村境に松崎川が描かれている。川幅はかなり広く、中洲のようすまで描かれている。松崎川添の吉田村の地字には、上川原・中川原・南川原・川原など川原地名が並んでいる。この松崎川は古くは夜間瀬川の本流だったが、応永一三年の洪水で高社山麓の方へ流

松崎川

路が移ったという伝承である。その本流の名残が松崎川で、松崎から中野村と一本木村の村境、吉田村の東境を通って

西江部村の松崎から延徳沖・千曲川へと続いていた。

西江部村の文書によると、かつては松崎川に八ヶ郷の洩水が流れ、用水に使用してい

た。寛保二年(一七四二)成の満水で夜間瀬川が氾濫し松崎川へ押し込んだ。大きな石砂が川筋を埋めたので八ヶ郷の洩れ水が流れなくなったという。

そののち、松崎川の周辺は次第に新田開発された。川筋は細くなったが、幕末の絵図にもしつかり描かれてある。

(河野 実)

編集委員 だより

「NO TV Day」 (ノーテレビデー)

のすすめ

暑い夏は涼しい部屋で読書が最高。学生時代には、どんな本も片っ端から読んだ。もちろん、今と比べたら時間も豊富にあった。暇さえあれば本を読んでいたような気がする。今は、仕事やその他諸々の雑用に追われ、読書は二の次。寝る前に本を開こうものならば、それは強力な睡眠薬と化してしまう。

そんなわけで、読書量はめっきり減り、読む本も俗にベストセラーといわれるものばかりになった。積んであるだけで読んでいないものも多いところ、我が家には

「NO TV Day」というのがある。週に一日、テレビを観てはいけない。ゲームもパソコンもダメ。という日だ。

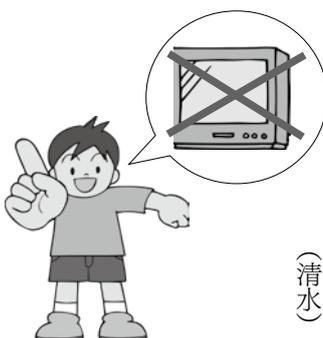
2年ほど前に聴いた、ある作家の講演で「日本の子ども達は、やたらと就寝時間が遅

くテレビやゲームにさらされる時間が長い。将来的に心身に及ぼす影響は必至である」という話を聴いたのがきっかけだ。日本の将来は大丈夫だろうか？と、恐ろしくなった。事実、ゲーム感覚で犯罪を起こす青少年が増えている。

そこで、帰宅してすぐに、NO TV DAYを提案してみた。猛反対されるかと思っていたが、予想に反して案外すんなり受け入れられた。以来、ずっと、我が家ではNO TV MONDAY(ノーテレビマンデー)が続いている。

テレビを観ないからと言って、勉強したり読書に没頭したりするわけではないけれど、そこには、ゆるゆるとした家族団欒の時間が流れている。なんとなく点いているテレビのスイッチをオフにした時忘れかけていた大切なものを取り戻せるかも知れない。

(清水)



今月の伝言板

中央公民館から

■パソコンふれあいサロン

パソコンを使っていてわからないところなど、専門の指導員がお答えします。お気軽にお出かけください（メニューに沿って進めるパソコン教室とは異なります）

日時 毎週月曜日（祝日、年末年始を除く）
午後1時30分～4時30分

場所 中央公民館 団体室（パソコン室）

定員 6名 受講料・申込み 不要

その他 パソコンをご持参いただいても結構です

8月の展示コーナー

陶芸展

場所 中央公民館1階 展示コーナー

お問合せ及び 中野市中央公民館
申込み先 ☎22-2691 (有)20691

豊田公民館から

■古文書教室

古文書をひもといで郷土の歴史に触れてみませんか？

日時 8月22日、9月12日、10月10日、11月14日
12月12日、1月9日（全金曜日）

場所 豊田公民館 定員 20名

講師 館林 弘毅 先生

参加料・持ち物 不要

申込み 8月20日（水）までに豊田公民館へ

お問合せ及び 中野市豊田公民館
申込み先 ☎38-2922

北部公民館から

■布ぞうり教室

古布を活用して作る室内履きです。履いて気持ちいい、飾ってお洒落、歩くたびに床掃除、そしてガンガン洗えます。

日時 8月28日、9月4日、11日（全木曜日）
午後1時30分～3時30分

場所 北部公民館 定員 20名 参加費 無料

講師 シルバー人材センター手芸クラブ

持ち物 お持ちの方は木綿製の古布
（浴衣やシャツ等そのままお持ち下さい）

申込み 8月18日（月）午前9時から
定員になり次第締切り

お問合せ及び 中野市北部公民館
申込み先 ☎26-0677 (有)28878

西部公民館から

■里山の薬草観察会&草花料理講座

自然の薬草観察と食べられる草花について料理実習を開催いたします。

身近な草花に興味を持つことがふるさとの自然を守る第一歩ではないでしょうか？

日時 8月30日（土）午前9時30分～午後2時
※雨天でも行います

観察場所 浜津ヶ池公園一帯

講師 長野県薬草指導員 須山正男、三重子さん

参加料 無料（但し傷害保険料100円）

持ち物 昼食、飲み物、おやつ、採集した植物等を入れる袋、筆記用具、雨具、凶鑑

申込み 8月7日（木）から定員30名になり次第締切

お問合せ及び 中野市西部公民館
申込み先 ☎23-1024 (有)26674

今開講の
お知らせ



家庭教育学級 ～たのしんで子育て～

演題 子どものとらえ方を考える

—大人が子どもを見るときにありがちな“クセ”や“誤解”について—

日時 8月28日（木） 場所 中央公民館講堂

午前10時～11時30分

講師 長野県短期大学 幼児教育科 教授
藤田 勉 先生

参加料・申込みは不要です
託児あります



ハス / 浜津ヶ池 (t)



夏祭り (TOYA)



アジサイ / 谷厳寺 (月岡尚雄)

花と季節の写真
募 集

文化なかの編集委員会では、読者参加型の公民館報にするため市民のみならず、中野市内の花や季節の写真を募集します。未発表写真に限ります。四ツ切りまで（ワイドサイズも可）のプリント、デジタルデータ（未加工のもの）編集委員が選び、9月号に掲載します。

氏名、住所、連絡先、作品名、撮影場所、花の名前、写真のコメントを書き送って下さい。匿名希望やペンネーム掲載はその旨をお伝え下さい。随時募集します。

宛先は中央公民館
 ☎ 3833-0025
 中野市三好町一丁目4番27号
 ☎ 22・2691（有線20691）
 Eメール c-kominkan@city.nakano.naganjo.jp

季節のコラム

納涼

夏祭り、アジサイやアサガオ
 ハスなどの夏の花や花火
 日本の夏は情緒豊かであってほしい
 他にも、緑陰、打ち水、うちわ、浴衣
 冷やしたスイカなど・・・
 中野の夏も郷愁を呼び
 風情に満ちた風物が多い
 日本らしい短い夏を豊かに味わいたい